

中国沿海地域の大学生の老親扶養意識*

包
浅
野

敏**
仁***

はじめに

中国国家统计局1999年10月1日の推計統計によると、60歳以上の高齢者数は約1億2,600万人で、総人口の9.8%、65歳以上の高齢者人口は約8,800万で、高齢化率はほぼ7%となっている。中国はいわゆる「高齢化社会」の段階に入った。周知のように中国では70年代初めからすでに実施されていた計画出産政策は1979年より「一人っ子政策」の実施に転換された。これにより、中国の出生率は急速に低下し、高齢化が一段と進行した。中国の将来人口についての予測では、2025年では60歳以上の高齢者数は2.8億人で総人口の18%を占め、2050年には60歳以上の高齢者数は4億人で総人口の25%を超える。中国は世界でも稀にみるほど高齢人口規模が大きく、高齢化のスピードが速い。他国と比べ、中国の人口高齢化の主な特徴は以下の通りである。

1. 人口高齢化のスピードが速く、高齢人口が多い。1982年から1997まで中国総人口の年平均増加率は1.3%であったが、高齢人口（60歳以上）の年平均増加率は3.9%に達した。工業先進国は人口年齢構造が成年型から老年型に転じるには数十年ないし百数十年を要したが、中国の場合はわずか20年ぐらいであった。中国の60歳以上の高齢人口は2000年に1.3億人に達し、世界における老年総人口の20%を占める。この数はイギリス、フランス、スウェーデン、ノルウェー4カ国の総人口に匹敵する。これには「一人っ子政策」の実施で急速な少子化による原因が大きいと考えられる。中国は21世紀前半に超高齢化社会を迎えると

予測されている。

2. 東部、沿海都市部で先行する高齢化。中国の高齢化進行は高齢先進国と異なり、農村部より都市部において顕在化している。これは計画出産が都市部で早く普及したため、計画出産普及の先進地域ほど高齢化率も高い数字を示している。「中国統計年鑑」（2000年）によると、65歳以上の高齢者比率が7%を超えた地域は遼寧（7.8%）、北京（10.3%）、天津（9.4%）、山東（8.6%）、江蘇（9.8%）、上海（13.8%）、浙江（9.5%）、福建（8.0%）、広東（7.9%）、広西（7.9%）、安徽（7.4%）、河南（7.1%）、湖北（7.2%）、湖南（7.9%）、重慶（8.8%）、四川（8.3%）、陝西（7.1%）などである。総じて東部、沿海地域では高齢化が進行している。一方、内陸部地域の寧夏、青海、貴州、チベット、雲南などはいずれ4%～7%である。全体からみれば、地域格差が大きい。

3. 「未富先老」。この言葉の意味はつまり先に高齢化した先進国が高齢社会を迎えた際、すでに経済的に強い実力を備えている。しかし、中国はまだ豊かにならない段階で高齢化社会を迎えた。

一方、近い将来の高齢化社会にそなえ、高齢者の介護等を担う世代は一人っ子を含め、親への扶養意識についてどう考えているか。「一人っ子政策」実施後、生まれた「本格」的な初代一人っ子世代は20歳になった。現在在学中の大学1、2年生に相当する。20歳と20歳過ぎの大学生の老親扶養意識はある意味では中国の将来の高齢化社会の行く末を左右していると言っても過言ではない。大学生は中国社会のエリートであるから、この階層の扶養意識は社会全体に影響力があることは言

*キーワード：中国沿海地域、老親扶養、大学生

**関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

***関西学院大学社会学部教授

うまでもない。

上記をふまえ、沿海地域の三つの省（日本の県に相当する）山東・江蘇・福建省を選び、それぞれ3つの省に属する大学（日本の県立大学に相当する）山東師範大学・蘇州大学・福建師範大学の学生の老親扶養意識調査を実施した。これまでこの三地域で同様の調査は行われていない。

I. 調査概要

1) 調査目的

中国沿海地域の大学生の扶養意識を明らかにし、今後行政部門が高齢者福祉対策の推進を図るための基礎資料とすることを目的とする。

2) 調査対象

山東師範大学・蘇州大学・福建師範大学（以下山東・江蘇・福建と称す）の中国語言語文学学部在学中の学生を対象にそれぞれ198人、283人、217人の合計698人である（表1参照）。

表1 地域別回答数

調査地点	有効回答数
山東	198人
江蘇	283人
福建	217人
合計	698人

3) 調査期間

1999年11月。

4) 調査地域と方法

調査先は3つの大学で、授業中、学生にアンケート用紙を配り、回収した。

5) 調査処理の方法

各項目を単純集計した後、クロス集計を行い、項目間の関連性を検討した。さらにカイ二乗検定により統計的な検定を行った。

6) 三地域の特性及び選んだ理由

ア. 山東省・江蘇省・福建省はともに中国東部の沿海地域である。1980年代改革開放政策実施後、めざましい発展をとげ（『中国年鑑1999年』によると、1人当たりGDPは山東省が7590元〈9位〉、江蘇省が9344元〈6位〉、福建省が9258元〈7位〉である。1元=13円）、経済的に恵ま

れた地域である。

イ. 三省の高齢化率は高い。『中国統計年鑑』（1999年）によると、65歳以上人口の高齢人口比率は山東省、江蘇省と福建省がそれぞれ8.3%、9.2%と7.8%であり、高齢化の進んだ地域である。いずれの内陸部の地域に先駆けて高齢者の問題に取り組まなければならない地域である。

ウ. 山東師範大学、蘇州大学と福建師範大学は山東・江蘇・福建省に属する大学である。在学生はそれぞれの省の出身者であるから、それぞれの地域を代表する対象者である。

7) 調査の仮説

- (1) 沿海地域の大学生は将来親との別居意識が強い。
- (2) 男性は女性よりも老親扶養に肯定的である。
- (3) 出身地が農村の方が都市部に比して老親扶養に肯定的である。

II. 調査の結果

今回の調査は性別と親の戸籍別（中国の場合、戸籍が都市と町にあるか、又は農村にあるかにより、経済的な保障が全く異なる。中国の社会保障制度は長い間、農村部の農民く農業生産によって生活を賄う）にはほぼ無縁な状態であった。子の戸籍は母親の戸籍に従うから、今回はあえてこの項目を入れた）でクロス集計した。主要な結果は以下の通りである。

1) 調査対象の基本属性

(1) 性別

男性は202人（28.9%）、女性は436人（62.5%）、不明60人（8.6%）であった。3大学とも師範大学（蘇州大学は総合大学であるが、前身は江蘇師範学院であったため、現在も中国語学部をはじめ、ほとんどの学部は高校の教員を養成する師範制の大学である）のため、在学生は女子学生が大半を占める。

(2) 年齢

対象者の年齢の範囲は16歳～27歳である。内訳は以下の通りである。16歳（0.1%）、17歳（2.3%）、18歳（11.7%）、19歳（19.1%）、20歳（30.8%）、21歳（19.3%）、22歳（10.6%）、23歳

(2.4%)、24歳 (0.7%)、25歳 (0.1%)、27歳 (0.1) と不明 (2.6%) である。

(3) 兄弟 (姉妹) の人数

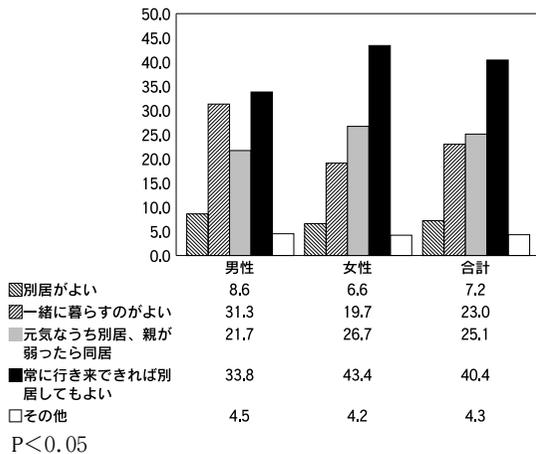
回答の中、兄弟 (姉妹) 二人、三人、四人、無い (一人っ子)、それ以上、いると答えたのはそれぞれ274人 (39.3%)、115人 (16.5%)、62人 (8.9%)、239人 (34.2%)、4人 (0.6%) と2人 (0.3%) であり、不明2人 (0.3%) である。

2) 同別居意識 (Q3 ~ Q5)

(1) Q3 結婚後、親との同居について

性別のクロス集計の結果をみると、沿海地域の大学生の別居意識を持つ者と同居意識を持つ者は半々である。全体の40.4%の人が「常に行き来できれば別居してもよい」と回答している。「元気なうち別居、親が弱ったら同居」と答えたのは25.1%、「一緒に暮らすのがよい」は23%、「別居がよい」と答えた人は7.2%、4.3%の人は「その他」である。この結果を男女別で見ると表2のとおりである。男性は女性より同居意識が強いことが分かる。

表2 親との同別居意識 (性別) (単位: %)



つぎに、母親の戸籍別で見ると、結果は表3の通りである。

本表からも分かるように、全体としては別居意識が依然高いが、出身地が農村の方が都市部より同居意識が強い。

(2) Q4 は Q3 で②を選択した者に親との同居理由を尋ねた質問である。性別の結果を見ると、

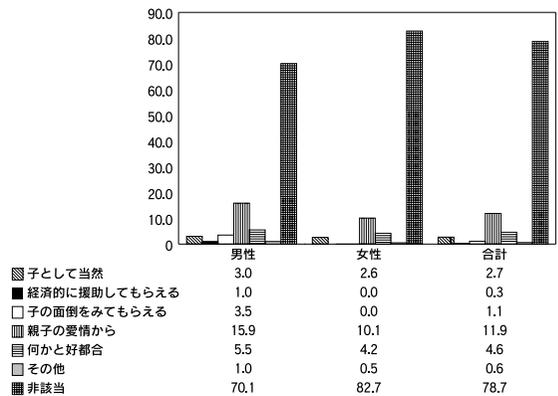
表3 親との同別居意識 (母親の戸籍別) (単位: %)

	都市	農村	合計
別居がよい	8.2	6.2	7.1
一緒に暮らすのがよい	19.0	26.7	22.9
元気なうち別居、親が弱ったら同居	22.7	26.4	24.6
常に行き来できれば別居してもよい	46.5	36.1	41.2
その他	3.6	4.7	4.2

P<0.05

「非該当」を除き、「親子の愛情があるから」、「何かと好都合」、「子として当然」、「子の面倒をみてもらえる」、「その他」、「経済的に援助してもらえる」の回答がそれぞれ11.9%、4.6%、2.7%、1.1%、0.6%と0.3%である。具体的に男女別の結果は表4に示す。

表4 「同居」の理由 (性別) (単位: %)



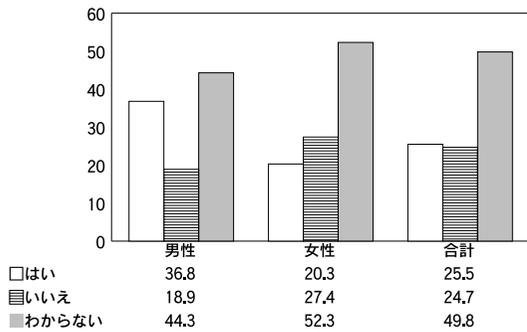
P<0.05

(3) Q5 は将来親との同居に関する質問である。性別で見ると、全体として半数近くの人が「わからない」との回答である。しかし、男女別では男性の方が「はい」と答えた者が多い (36.8%) のに対し、27.4%の女性は「いいえ」と回答している。その結果を表5に示す。

3) Q6 ~ Q10は老親扶養に関する質問である。

性別のクロス集計と母親の戸籍別のクロス集計でカイ2乗検定の結果、有意の結果が出たのはQ7とQ8である。母親の戸籍別ではQ7が有意の結果であり、性別のクロス集計ではQ8の結果が

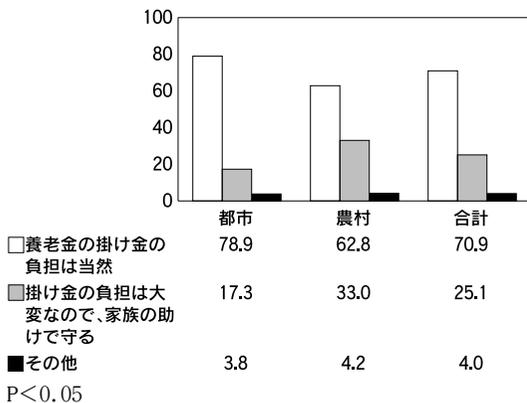
表5 将来親との同居意向 (性別) (単位: %)



P<0.05

有意である。その内、Q7は老人の社会的な扶養に関し、年金などの掛け金についての考えであるが、全体では掛け金の負担が「当然」と答えた者が70.9%である。「掛け金の負担は大変なので、家族の助けで守る」と答えたのは25.1%である。残り4%は「その他」と回答している。つぎに、都市、農村の出身別で見ると、農村の出身者は家族で守るという考えを持つ者が多い。それに対し、都市部の出身者は「養老金(年金)の掛け金を負担するのが当然」と答えた者が多い(表6参照)。

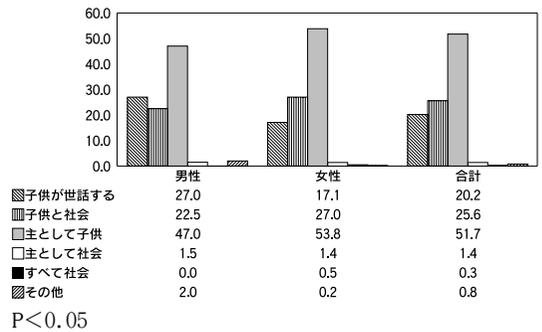
表6 年金の保険料負担に対する考え方 (母親の戸籍別) (単位: %)



P<0.05

Q8は親が年をとった時の親の世話についての質問である。性別では全体の回答のうち、「主として子供がするが、子供の力の及ばないときは社会がする」と答えた者が51.7%でもっとも多い。以下順番に「子供と社会がする」との回答は25.6%、「子供が世話をする」との回答者は

表7 老親扶養に関する意識 (性別) (単位: %)

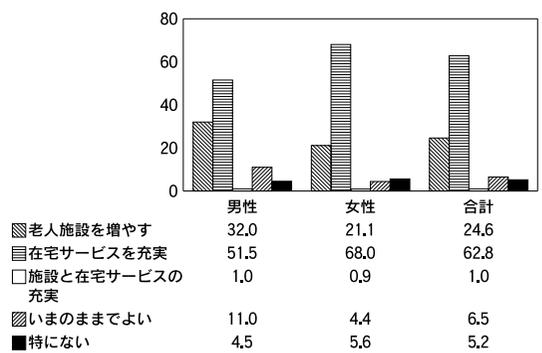


P<0.05

20.2%、「主として社会が世話をし、社会の力の及ばないところを子供がする」と答えた者は1.4%、「その他」は0.8%、「すべて社会がする」と答えたのは0.3%である。男女別では表7の通りである。最終的には男女ともに「主として子供がするが、子供の力の及ばないときは社会がする」の回答を選択した者が多い。ただし、男性は女性よりも「子供がする」と答えた者が多い。「子供と社会がする」との回答は男女それぞれ22.5%と27.0%の数字も非常に高い。

4) Q11~Q16は行政への期待と老人問題の関心の質問である。Q11とQ15は有意の回答が得られた。Q11については性別と母親の戸籍別でもに有意の結果がみられた。

表8 行政への期待 (性別) (単位: %)



P<0.05

表8と表9に示すように全体として、性別も戸籍別の結果も「在宅サービスを充実させるべきだ」と答えた者(それぞれ62.8%と61.9%)が多い。次に多いのは「老人施設を増やすべきだ」(24.6%と25.4%)。「いまのままでよい」と答え

たのは6.5%と6.7%である。「施設と在宅サービスを充実させるべきだ」と答えたのはともに1.0%。「特になし」との回答は5.2%と5.0%である。男女別、都市と農村別の回答結果を表8と表9に示す。

Q15のマスコミ等により国民の老人問題についての理解を深める必要があるかの質問である。性別で有意の結果が得られた。全体的には「そう考える」と答えた者が多い(89.1%)。「そうは考えない」との回答者はわずか4.9%、「わからない」と答えた者は6%である。性別でも男女ともに「そう考える」と回答した人が多い(表10参照)。

表9 行政への期待 (母親の戸籍別) (単位: %)

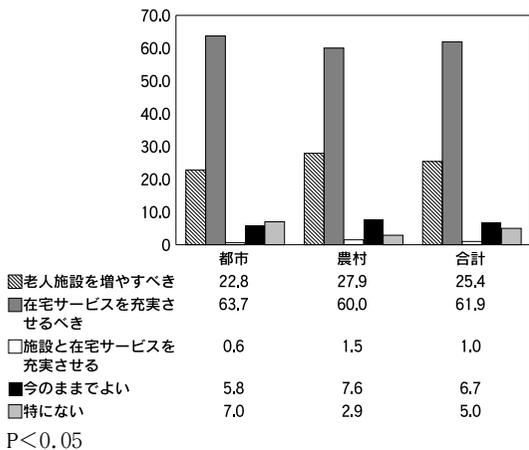
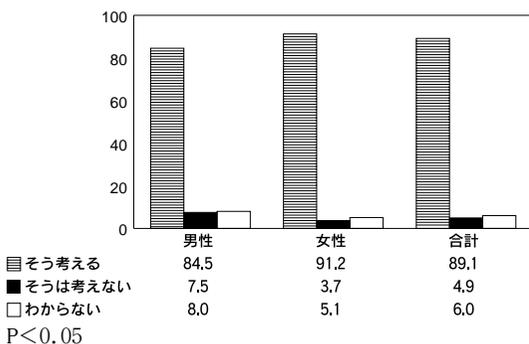


表10 マスコミへの期待 (性別) (単位: %)



Ⅲ. 考察

今回は中国沿海地域の大学生の老親扶養について性別と戸籍別でクロス集計し、有意の結果が出

た項目を取り上げた。上記の調査結果から調査仮説にしたがって分析すると以下のことが明らかになった。

1. 沿海地域の大学生は男性が女性よりも老親扶養に肯定的、出身地が農村の方が都市部に比して老親扶養に対して肯定的という仮説が支持された。ただ、男・女、都市(町)・農村の出身を問わず、将来親との別居志向が強いことも明らかとなった。

2. 中国では「一人っ子政策」実施後、世帯規模が縮小し、核家族化が進んでいる。今後はさらに進む傾向である。1997年の人口抽出調査のデータを1990年の数値と比べると、僅か7年間に中国の世帯規模は3.97人から3.64人へと縮小し、核家族化が進行している。つまり、多人数の世帯の減少が目立つ。6人以上の世帯は1982年に世帯総数の28%を占めていたが、1990年に15.4%、1997年に10.1%と低下している。3~4人世帯の割合は著しく増加し、1982年の35.6%から、1990年の49.5%、1997年の55.7%に上昇している。工業化、都市化、少子化により、世代間の距離が拡大し、家族の吸引力が低下し、家族の分散化の傾向を見せている。今後都市部の高齢者だけの世帯が出現し、いかに高齢者の生活支援をしていくかが重要な課題になる。

3. 親の老後の介護問題について現状ではまだ伝統的な様式で家族がカバーしている部分が多い。今回の結果からもわかるように「主として子供がするが、子供の力の及ばないときは社会が世話をするのが適当である」という回答が多い。また、「子供と社会の両方で世話をするのが適当である」という回答が次に多い。伝統的に家族が担う形で進んできた部分は、一人っ子政策により、4:2:1(4人の親を抱え、一人っ子夫婦がさらに子供一人を持つ)の家族形態では家族だけでは介護できない。在宅サービスと施設サービスの充実が必要である。また、在宅サービスを充実させるべきと老人施設を増やすべきという回答からも明らかのように、行政への期待が高い。

4. 中国ではこれまで改革开放政策の下、経済を優先的に取り組んでいる。高齢化率の地域格差もあるから、高齢者問題への関心、高齢化問題への取り組みはあまり重要視されていない。今後は

沿海地域で高齢化問題に緊急に取り組む必要がある。

5. 今回の調査は大学生を対象にしたものである。今後は同世代社会一般の若者を対象に、また、将来的に扶養される側になる親を対象に調査を実施し、両者を比較することにより、より深い分析結果が得られると考えている。

参考文献

- 社団法人 エイジング総合研究センター（平成12年3月）『都市の少子高齢化研究＜総括編＞』
時正新主編（2000）『中国社会福利與社会進歩報告（2000）』社会科学文献出版社
内閣総理大臣官房老人対策室監修（昭和59年4月10日）『高齢者問題総合調査報告』全国社会福祉協議会
中国国家統計局（2000）『中国統計年鑑—2000』中国統計出版社

付録：調査表

大学生の親に対する扶養意識調査

この度、老親扶養意識についてお尋ねしたいですが、どうぞご協力下さい。

年齢 歳（ 年 月現在） 性別 1、男 2、女

- 1、あなたには兄、弟、姉又は妹が何人いますか。
①一人 ②二人 ③三人 ④いない ⑤それ以上 ⑥いる
- 2、お父さんの戸籍は①都市②農村
お母さんの戸籍は①都市②農村
- 3、あなたは子どもが結婚後、親との同居をどう思いますか。
①できるかぎり別居するのがよい
②できるかぎり一緒に暮らすのがよい
③親が元気なうちは別居し、親の身体が弱ったら一緒に暮らすのがよい
④常に行き来できれば別居してもよい
⑤その他（ ）
- 4、②と回答した親と同居すると考える人の理由についてお答えください。
①同居するのが子として当然のつとめだから
②経済的に親から援助してもらえるから
③自分の子供の面倒をみてもらえるから
④親子の愛情から
⑤何かと好都合だから
⑥その他（ ）
- 5、あなた自身は将来親と同居するつもりですか。
①はい
②いいえ
③まだわからない
- 6、親は年を取れば、あなたは経済的に扶養しますか。
①親が老齢になって、子供が扶養するのは当然。
②経済的に十分な余裕がなければ子供が扶養しないのもやむを得ない。
③養老金など社会保障によって社会が扶養すべきだ。
④その他（ ）
- 7、養老金（年金）などによって老人を社会が扶養するために多額な経費がかかりますが、その経費の負担（年金の掛け金など）についてあなたはどのように考えていますか。
①老人の社会的扶養のため、養老金の掛け金などを負担するのは国民として当然の社会的責任である。
②養老金の掛け金などを負担するのは大変なので、できるだけ家族のたすけによって老人の生活を守るのがよい。
③その他（ ）
- 8、親が年をとれば、親の日常生活の世話は誰がするのがよいでしょうか。
①子供が世話をするのが当然
②子供と社会（例えばホームヘルパーの派遣）の両方で世話をするのが適当である。
③主として子供がするが、子供の力の及ばないときは社会が世話をするのが適当である。
④主として社会が世話をし、社会の力が及ばないところを子供が世話をするのが適当である。
⑤すべて社会が世話をすべきである。
⑥その他（ ）

- 9、あなたは年取った親が施設に入所することについてどう考えていますか。
- ①家庭での介護が無理だから、そうせざるをえない
 - ②できるだけこういう事態を避けたい
 - ③親不孝である
 - ④あまりよく分からない
- 10、子供が老齢の親を扶養しなければならないことを学校で積極的に取り上げる必要がありますか。
- ①そう考える
 - ②そうは考えない
 - ③わからない
- 11、あなたは政府行政に老人福祉のサービスに対する希望はありますか。
- ①老人施設をもっと増やすべきである
 - ②在宅サービスを充実させるべきである
 - ③施設と在宅のサービスを充実させるべきである
 - ④今のままでよい
 - ⑤特にない
- 12、ところで、あなたは中国の老人問題に関心がありますか。
- ①非常に関心がある
 - ②少し関心がある
 - ③あまり関心がない
 - ④全然関心がない
- 13、1991～2050年の中国の人口予測では60歳の老人人口を総人口に占める割合が2030年に21.93%、2040年には25.11%に達します。あなたはそれを知っていますか。
- ①知っている
 - ②あまりよく知らない
 - ③知らない
 - ④全然知らない
- 14、あなたは中国の老人問題をどう思いますか。
- ①相当深刻である
 - ②中国は国土が広いから老人が増えても余り問題はないでしょう
 - ③全然問題はない
 - ④よく分からない
- 15、マスコミ等により国民の老人問題についての理解を現在よりもっと深める必要がある。
- ①そう考える
 - ②そうは考えない
 - ③わからない
- 16、あなたは伝統的な老親扶養についてどう思うか。
- ①とてもいい習慣であるから継承すべきである
 - ②あまりいい習慣とは思わない
 - ③現状から言うとあまり現実的ではない
 - ④よく分からない

ご協力ありがとうございました。

The Undergraduate Student's Opinions of Supporting Aging Parents in Coastal Areas of China

ABSTRACT

The purpose of this paper is to observe through self-administered instruments, the opinions of undergraduate students regarding supporting their aging parents.

Since the aging population has been growing rapidly in coastal areas of China, respondents were chosen from such provinces as ShanDong, JiangSu, and FuJian. As "the single child policy" has been effective now for twenty years, most of the present undergraduate students are only children. There is good reason to probe their thoughts regarding caring for their aging parents as concerns about this issue increase in China.

Key Words: Coastal areas of China, The Undergraduate Student, the opinions of supporting aging parents